

「GUAM+日本」共同プレスリリース【仮訳】

2019年12月6日、ブラチスラバにおいて、OSCE外相理事会にあわせて、第7回「GUAM+日本」外相級会合が開催された。

GUAM側からは、エルマル・メメディヤロフ・アゼルバイジャン共和国外相、ダヴィト・ザルカリアニ・ジョージア外相、アウレリウ・チョコイ・モルドバ共和国外務・欧州統合相、ヴァディム・プリスタイコ・ウクライナ外相（GUAM議長）、アルタイ・エフェンディエフGUAM事務局長が出席した。

日本側からは、中谷真一日本国外務大臣政務官が出席した。

双方は、国連憲章に記されているものを含め、普遍的に認められている国際法の規範や諸原則に対する支持を再確認し、主権の尊重、領土の一体性や国際的に承認された国境の不可侵といった原則に基づく、GUAM地域における紛争の可及的速やかな解決に向けた国際的な努力の重要性を強調した。

双方は、地域又は地域間レベルでの平和、安全保障、繁栄及び安定の確保を目的とした、日・GUAM協力の重要性を強調するとともに、法の支配、民主主義、人権といった普遍的価値を尊重することへのコミットメントを想起した。

双方は、貿易・投資、エネルギー、緊急事態対処、観光、運輸、文化、農業、医療、環境といった関心分野における日本とGUAM間の協力を促進するための新たなプロジェクトの進展に資する確固たる基盤を提供する「日・GUAM協力プログラム」を実施していく強い意図を表明した。

双方は、2019年3月17日～23日に日本で開催された投資促進ワークショップの結果、また、2019年5月～6月のアゼルバイジャン及びジョージアにおける日本メディア向けのプレスツアーの第一段階について留意した。双方は、明年日本において税関ワークショップを開催することを決定した。GUAM諸国は、これら行事の準備及び実施における日本の支援に対して謝意を表明した。

双方は、「GUAM+日本」協力、地域的及び地球規模の幅広い課題について、ハイレベルの対話を維持する関心と用意を再確認した。

次回の「GUAM+日本」会合の日時及び場所については、外交ルートを通じて決定される。